

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	BunBu学院Jr.中目黒園
施設所在地	東京都目黒区青葉台1-15-14
法人名	株式会社ニリア・バニー

1. 活動のテーマ

<テーマ>

笑育(発表)1月25日

<テーマの設定理由>

・笑育は、プロの芸人さんから漫才を教えてもらい、自分たちですじがきを考えてオリジナルの漫才を披露しようというプログラムである。松竹芸能の「大吟醸」さんが園に来てくれて、始めはご自身たちの漫才を披露してくれる。その後に、挨拶から始まり、漫才の題材を決めていき、何回かに分けて練習を重ねて親御様に発表することになった。

2. 活動スケジュール

※1月25日は5歳児クラスだけにイベント「メロンパーティー」がある。笑育はその際の保護者様へのお披露目イベントとして行う

※始めに一度大吟醸さんが来て下さり、漫才を披露してくれる。その後、担任とクラスの子どもたちとのボケの漫才を行う練習を開始する

※誰とコンビを組むか？どの題材でものボケを行うか？子どもたちと話し合い、少しずつ漫才を作り上げていく。

※途中、進捗状況を大吟醸さんが見に来てくれる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・笑育を始める前に、松竹芸能さんとどのようなプログラムで進めていくか、どのような漫才が子どもだったらやりやすく覚えやすいか、数回にわたり打ち合わせを重ねていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・一組、2～3人のコンビやトリオになり、前に出て挨拶をする。この時にコンビ名もしっかりと名乗る。
- ・一人ずつ事前に決めた材料でものボケをする。次にボケてない相方役の子はボケに対して突っ込みをいれていく

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・子どもが恥ずかしがって不安にならないように見守り応援する。練習の際、普段の時に笑育の話題を話、子どもの興味が継続するように配慮した。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お笑いとは、相手と呼吸を併せたり、場の空気を読んだり、機転を利かせて臨機応変に立ち振る舞わらなきゃいけない物だと考えている。今後ITの進化により、計算等の処理的業務は人の携わる部分が減ってくる。そこで今後の世に大切な能力は、自分で考えて動ける力やコミュニケーション能力だと考える。笑育にはその自分で考え動く力やコミュニケーション力を身につける上で必要な経験が沢山詰まっているように感じる。今回の子どもの笑育の様子をみてそれを強く感じた。笑いが世界をすくといっても過言ではないと考察した。